

第25回 臨床消化器病研究会 プログラム

日 時 : 2025年8月9日(土)8:45~15:50 (受付開始 8:00~)

形 式 : ハイブリッド開催

会 場 : 虎ノ門ヒルズフォーラム

〒105-6305 東京都港区虎ノ門 1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー

4F ホール「肝胆膵の部」

5F ホール「消化管の部」

※終了後に情報交換会を予定しております。

参 加 費 : 1,000 円(学生・研修医は無料です)

参加登録 : <https://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>



事 務 局 : 【消化管】 岩手医科大学医学部 内科学講座 消化器内科分野

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通 2-1-1

TEL.019-611-8007(ダイヤルイン 6222) FAX.019-907-7166

【肝胆膵】 東京医科大学 消化器内科

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1

TEL:03-3342-7769(医局専用) FAX:03-5381-6654

- 本講演会は、医療関係者の皆さまに限り、ご参加いただくことが可能です。
- 本講演会の内容(話される内容や投影される文字、写真、図、イラストなど)の無断での複製、転載、改変、その他の二次利用はお控えください。
- 配信会場ではお弁当をご用意しております。なお、国公立等の施設にご所属の先生方におかれましては、事前にご所属施設の規則等をご確認のうえご対応いただきますようお願い申し上げます。

共 催 臨床消化器病研究会
EA ファーマ株式会社

交通案内



虎ノ門ヒルズフォーラム

〒105-6305 東京都港区虎ノ門 1-23-3

虎ノ門ヒルズ森タワー

<https://forum.academyhills.com/toranomon/access/>

4F ホール「肝胆膵の部」

5F ホール「消化管の部」

第25回臨床消化器病研究会 進行表

◆ 昼食はお弁当をご用意いたします。(12:40～13:45)

Time	消化管	Time	肝胆膵
8:45	開会の辞 松本 主之	8:45	開会の辞 糸井 隆夫
8:50	主題1 炎症性腸疾患(IBD) 「症例から学ぶ炎症性腸疾患 Final Season」 司会: 平井 郁仁 猿田 雅之 病理コメンター: 二村 聡	8:50	主題1 肝 「肝血管腫・肝類上皮血管内皮腫・肝血管肉腫」 司会: 南 康範 佐野 圭二 病理コメンター: 草野 弘宣 画像コメンター: 小坂 一斗
10:20	休憩	10:40	休憩
10:30	主題2 消化管癌(形態学):上部消化管 「胃の神経内分泌腫瘍(Neuroendocrine neoplasm, NEN)の理解と診断」 司会: 長浜 隆司 上堂 文也 病理コメンター: 八尾 隆史	10:50	主題2 胆 「膵・胆管合流異常と胆道病変」 司会: 菅野 敦 波多野 悦朗 病理コメンター: 相島 慎一 画像コメンター: 吉満 研吾
12:00	休憩	12:40	昼休憩
12:10	主題3 機能 「消化管機能障害に対する最新の内視鏡診断と治療」 司会: 中島 淳 眞部 紀明 演者: 栗林 志行 演者: 塩飽 洋生		
13:00	昼休憩		
13:15	ランチョンセミナー 司会: 松本 主之 演者: 糸井 隆夫	13:15	ランチョンセミナー(消化管の部より中継) 司会: 糸井 隆夫 演者: 松本 主之
13:45	休憩	13:45	休憩
14:15	主題4 消化管癌(形態学):下部消化管 「大腸腫瘍性病変の診断 —25年間のあゆみ—」 司会: 山野 泰穂 大宮 直木 病理コメンター: 九嶋 亮治	13:55	主題3 膵 「次世代に伝えたい貴重な症例」 司会: 潟沼 朗生 大塚 隆生 病理コメンター: 福嶋 敬宜 画像コメンター: 山下 竜也
15:45	閉会の辞 松本 主之	15:45	閉会の辞 糸井 隆夫

プ ロ グ ラ ム

消化管の部、肝胆膵の部 合同開催
ランチョンセミナー (各15分)

司 会： 松本 主之 (岩手医科大学医学部 内科学講座 消化器内科分野 教授)

「臨床消化器病研究会「肝胆膵の部」～これまでの歩み～」

演 者： 糸井 隆夫 (東京医科大学 消化器内科 教授)

司 会： 糸井 隆夫 (東京医科大学 消化器内科 教授)

「臨床消化器病研究会「消化管の部」～これまでの歩み～」

演 者： 松本 主之 (岩手医科大学医学部 内科学講座 消化器内科分野 教授)

※ご講演は消化管の部の会場となります。肝胆膵の部の会場には中継いたします。

主題1 炎症性腸疾患(IBD):「症例から学ぶ炎症性腸疾患 Final Season」

司 会: 平井 郁仁 (福岡大学医学部 消化器内科学講座)

猿田 雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)

病理コメンター: 二村 聡 (福岡大学筑紫病院 病理部・病理診断科)

症例検討(各45分)

【症例提示】

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1) 福岡大学医学部 消化器内科学講座 | 久能 宣昭 |
| 2) 兵庫医科大学 消化器外科学講座 炎症性腸疾患外科 | 堀尾 勇規 |

【コメンター】

富山大学 炎症性腸疾患内科	渡辺 憲治
防衛医科大学校 消化器内科	穂苅 量太

【主題のねらい】

炎症性腸疾患（IBD）には、潰瘍性大腸炎（UC）、クローン病（CD）といった狭義の IBD の他に、様々な類縁疾患が存在する。具体的には、類似の内視鏡像を呈する疾患、膠原病や自己免疫疾患などに伴う消化管病変、感染症や薬剤性により生じる消化管疾患などがあり、診断に迷うことや治療に難渋することも少なくない。さらに、UC と CD の鑑別が困難で、治療に難渋した結果、外科治療においてもその術式に悩む症例も存在する。そこで本研究会では、診断と治療に難渋した IBD の新規症例の検討を行うとともに、これまでに本会で取り上げてきた様々な IBD および類縁疾患について改めて提示し解説する。

【MEMO】

**主題2 消化管癌(形態学)上部消化管:
「胃の神経内分泌腫瘍(Neuroendocrine neoplasm, NEN)の理解と診断」**

司 会: 長 浜 隆 司 (新東京病院 消化器内科)

上 堂 文 也 (大阪国際がんセンター 消化管内科)

病理コメンター: 八 尾 隆 史 (順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学)

1. 基調講演(各15分)

「胃の神経内分泌腫瘍(Neuroendocrine neoplasm, NEN)の理解と診断」

【臨 床】 大阪国際がんセンター 消化管内科

上 堂 文 也

【病 理】 滋賀医科大学医学部 病理学講座

九 嶋 亮 治

2. 症例検討(各30分)

【症例提示】

1) 市立池田病院 消化器内科

荻 山 秀 治

2) 大阪国際がんセンター 消化管内科

平 野 佑 一

【読影者】

新東京病院 消化器内科

外 山 雄 三

福岡大学筑紫病院 消化器内科

金 光 高 雄

【主題のねらい】

1907年にドイツの病理医が癌に比べて特異な組織像を示し緩徐な発育を示す小腸腫瘍を Karzinoide と命名して以来、消化管の神経内分泌腫瘍 (Neuroendocrine neoplasm, NEN) は概念が不明瞭なままにカルチノイドと呼称されてきた。しかしその後、NEN の多様性がわかるにつれ、2010 年以降の WHO 分類ではカルチノイドという名称は廃止され、NEN は分化度と細胞増殖活性をもとに高分化の neuroendocrine tumor (NET) と低分化の neuroendocrine carcinoma (NEC) に分類された。このような概念を胃 NEN にそのままあてはめると、胃 NET と胃 NEC は単に細胞異型度と増殖活性だけが異なる同系列の腫瘍であるかのようにとらえられかねない。しかし、胃において NET と NEC は起源・性質が全く異なる腫瘍である。すなわち胃 NET は内胚葉系の内分泌細胞の前駆細胞から発生した異型度の低い低悪性腫瘍であるのに対して、NEC は腺癌と同様に多機能幹細胞を起源に発生し、内分泌細胞への分化傾向をもつ転移・増殖能の高い高悪性度腫瘍である。本セッションでは NEN の概念の理解と、胃 NET と胃 NEC の形態や臨床像のちがいの認識により、正確な診断と取り扱いができるようにしたい。

【MEMO】

主題3 機能：「消化管機能障害に対する最新の内視鏡診断と治療」

司 会：中 島 淳（国際医療福祉大学 消化器内科／熱海病院）

眞 部 紀 明（川崎医科大学 検査診断学(内視鏡・超音波)）

講演(各25分)

「消化管運動障害に対する最新の内視鏡診断」

群馬大学大学院医学系研究科 消化器・肝臓内科

栗 林 志 行

「食道運動障害と GERD に挑む：内視鏡診療の最前線」

福岡大学病院 消化器外科

塩 飽 洋 生

【主題のねらい】

消化管機能障害の診療では、近年進歩が著しい内視鏡技術を駆使し、これまで捉えきれなかった消化管の微細炎症や機能異常を早期に発見し、適切な治療に導くことが理想的である。現在、各種内視鏡を用いた先進的な観察技術による管腔内からの詳細な観察のみならず超音波内視鏡による消化管壁の評価など、管腔内からの診断と断層診断の両面からの診断法の確立が進んでいる。一方、治療においては、経口内視鏡的筋層切開術(POEM)や内視鏡的噴門部粘膜焼灼術(ARMA)などの新しい治療法の開発、そして術後の合併症管理や再発予防を含めた包括的な内視鏡治療戦略の構築が進んでいる。本主題では、これらの最新の内視鏡診断・治療に関する知見や技術、臨床応用についてお二人の先生にご講演頂き、消化管機能障害に対するより効果的で安全な内視鏡診療について理解を深めることを目的とする。

【MEMO】

主題4 消化管癌(形態学)下部消化管:
「大腸腫瘍性病変の診断 ―25 年間のあゆみ―」

司 会: 山野 泰穂 (札幌医科大学医学部 内科学講座 消化器内科学分野)

大宮 直木 (藤田医科大学 先端光学診療学講座)

病理コメンター: 九嶋 亮治 (滋賀医科大学 病理学講座)

1. 基調講演(10分)

「大腸腫瘍性病変に対する診断の基本」

札幌医科大学医学部 内科学講座 消化器内科学分野

山野 泰穂

2. 症例検討(各20分)

【症例提示】

1) 典型的な大腸腫瘍性病変の診断

聖マリア病院 消化器内科

河野 弘志

2) 大腸鋸歯状病変の診断

秋田赤十字病院 消化器病センター

松下 弘雄

3) 潰瘍性大腸炎に合併する腫瘍性病変の診断

富山大学 炎症性腸疾患内科

渡辺 憲治

4) 腸管非上皮性腫瘍の鑑別

佐賀大学医学部 内科学講座 消化器内科

芥川 剛至

【主題のねらい】

本研究会の目的は若い世代を中心に消化器病学の理解を深めていただくことであり、とりわけ診断を重視してきた経緯がある。25 年間の歴史のなかで下部消化管セッションとしては、腫瘍を中心にさまざまなテーマを取り上げ企画されてきたが、最終回を迎える今回は、これまでに取り上げられた 25 のテーマ（第 1 回のみ 2 テーマ）のなかから日常診療で経験することが多い「大腸腫瘍性病変の診断」を取り上げることとした。基調講演に続き、典型的症例（通常型）から応用編までの 4 症例の提示と解説を頂き、診断のポイントを皆で学ぶセッションとしたい。

【MEMO】

主題1 肝:「肝血管腫・肝類上皮血管内皮腫・肝血管肉腫」

司 会: 南 康 範 (近畿大学医学部 消化器内科)

佐 野 圭 二 (帝京大学医学部 外科学講座)

病理コメンター: 草 野 弘 宣 (久留米大学病院 病理診断科・病理部)

画像コメンター: 小 坂 一 斗 (金沢大学医学部附属病院 放射線科)

1. 基調講演(10分)

「肝血管腫・肝類上皮血管内皮腫・肝血管肉腫」

信州大学医学部 画像医学教室

塚 原 嘉 典

2. 症例検討(発表8分／質疑7分)

1) 硬化型肝血管腫の1例

水戸済生会総合病院 消化器内科

仁 平 武

2) 不明熱で発見された壊死を伴った巨大肝血管腫の1切除例

東京医科大学病院 消化器内科

高 橋 宏 史

3) 治療選択に苦慮するも小康が得られているびまん性肝血管腫症の2例

金沢大学病院 放射線科

吉 野 航

4) 悪性化した Hepatic Small Vessel Neoplasm の1例

医療法人彰和会 北海道消化器科病院 内科

諏 訪 兼 彦

5) 多発肝嚢胞の形態を呈した血管肉腫の1例

自治医科大学 病理学講座(包括病態病理学部門)

沼 倉 里 枝

6) 切除不能肝類上皮血管内皮腫の1剖検例

金沢大学病院 消化器内科

長 井 一 樹

【主題のねらい】

肝血管腫、肝類上皮血管内皮腫（EHE）、肝血管肉腫はいずれも血管性増殖性病変であり、肝に発生する腫瘍性病変の中でも画像診断上、特異な課題を有する。肝血管腫は頻度の高い良性腫瘍である。大部分は海綿状血管腫であり、CT/MRIのダイナミックスタディ、超音波所見、MRI信号で診断は容易である。しかし、退行変性、線維化、出血を伴うことにより非典型像を呈する例では、悪性腫瘍との鑑別が困難となり、不必要な外科的切除が行われることもある。EHEは、血管内皮由来の稀少腫瘍であり、低～中間悪性度に分類される。肝末梢に多発し癒合傾向を示す典型例では診断が比較的容易であるが、孤発性や肝門部に限局する病変では、画像診断に難渋する。肝血管肉腫は極めて悪性度が高く、画像所見も多発結節型、腫瘤型、びまん型と多彩である。造影効果やMRI信号も不均一であり、画像診断のみでの確定は困難を極める。本セッションでは、これらの血管由来腫瘍性病変における診断困難例や稀少腫瘍の症例、あるいは特異な経過をたどった症例を提示し、それぞれの画像的特徴、病理診断上の課題、治療戦略への影響を多角的に検討する。基調講演および症例検討を通じて、鑑別のヒントとなる画像所見を整理し、日常診療に応用可能な知見の共有を目的とする。

【MEMO】

主題2 胆:「膵・胆管合流異常と胆道病変」

司 会: 菅 野 敦 (自治医科大学 消化器肝臓内科)

波多野 悦朗 (京都大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学)

病理コメンター: 相 島 慎一 (九州大学大学院 構造病態病理学分野)

画像コメンター: 吉 満 研 吾 (福岡大学医学部 放射線医学教室)

1. 基調講演(15分)

「膵・胆管合流異常と胆道病変」

千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学

大塚 将之

2. 症例検討(発表8分／質疑7分)

- 1) 全エクソームシーケンスにより同一起源と考えられた異時性胆膵管内乳頭状腫瘍の1例

京都大学医学部附属病院 消化器内科

森 雄 貴

- 2) 膵・胆管合流異常に合併した胆嚢の biliary intraepithelial neoplasia (BilIN)

九州大学大学院医学研究院 構造病態病理学分野

糸 山 昌 宏

- 3) 妊娠中に発見された先天性胆道拡張症に合併した胆道癌の1例

東北大学病院 消化器内科

田 中 優 一

- 4) 胆嚢腺筋腫症の経過観察後に発症した胆嚢癌 3 例

—胆嚢腺筋腫症の陰に潜む胆管非拡張型膵・胆管合流異常—

平塚胃腸病院

藤 本 武 利

- 5) 急性膵炎を繰り返した副胆嚢が主膵管に合流する重複胆嚢の1例

神戸大学医学部附属病院 消化器内科

岡 本 浩 平

- 6) 膵・胆管合流異常症と鑑別を要した十二指腸重複腸管の1例

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学

小 木 曾 拓 也

【主題のねらい】

膵・胆管合流異常は、胆管と膵管が十二指腸壁外で合流する先天性形成異常である。膵・胆管合流異常は、胆道癌の発生率が高く、胆道癌の危険因子としても知られている。その原因の一つとして、膵液の胆管への逆流による胆道粘膜の慢性的な炎症の持続と考えられている。膵・胆管合流異常に合併する胆道癌の病理組織学的特徴として、肉腫様胆嚢癌や混合型神経内分泌癌などの特殊亜型が多く、遺伝子変異も多いとされるが明らかではない。また、胆管拡張のない膵・胆管合流異常症例は、胆管癌の頻度が低いことから、予防的な胆嚢摘出術のみを行うことも多いが、遺残胆管への発癌頻度や発生した腫瘍の特徴など不明な点も多い。今回、膵・胆管合流異常に合併した胆道病変の症例を募集する。様々な症例を集積することにより、膵・胆管合流異常と胆道癌の理解を深め、明日からの日常診療に役立てたい。多数の応募を期待する。

【MEMO】

主題3 膵:「次世代に伝えたい貴重な症例」

司 会: 潟沼 朗生 (札幌医科大学医学部 内科学講座 消化器内科学分野)

大塚 隆生 (鹿児島大学医学部 消化器外科)

病理コメンター: 福嶋 敬宜 (自治医科大学病理学講座・病理診断部)

画像コメンター: 山下 竜也 (松任石川中央病院 消化器内科)

1. 基調講演(15分)

「次世代に伝えたい貴重な症例」

手稲溪仁会病院 教育研究センター 顧問

亀田総合病院 消化器内科 顧問

真口 宏介

2. 症例検討(発表8分／質疑10分) ※症例提示者は discussant も兼ねております

1) EUS-FNA での診断に難渋した特殊型膵癌の 1 例 -臨床と病理の連携の重要性 -

敬愛会中頭病院 消化器内科

森 英輝

2) EUS-FNA で診断しえた主膵管拡張を伴うセロトニン産生型膵神経内分泌腫瘍の 1 例

JA 尾道総合病院 消化器内科

奥田 康博

3) 薬物療法が著効し Conversion surgery に至った

BRCA2 生殖細胞系列に病的変異を有する局所進行膵癌の 1 例

札幌医科大学医学部 内科学講座 消化器内科学分野

恵良田 万由子

4) 特異な画像所見を呈した膵原発胎児消化管類似癌の 1 例

手稲溪仁会病院 消化器病センター

金 俊文

5) 主膵管に発生した上皮内癌と膵野の微小浸潤癌が併存した膵癌の 1 例

自治医科大学内科学講座消化器内科学部門・病理診断部

池田 恵理子

【主題のねらい】

臨床消化器病研究会もこの第25回の『膵』のセッションで最後を迎える。これまでのセッションではIPMNや膵がん、MCN、小膵癌、など幅広く疾患を取り上げてきた。これにより、典型例から非典型例まで広範かつ多岐にわたる知識が得られ、本研究会が参加者にとって有用かつ有益であったことは疑いの余地がありません。さらに、この研究会の大きな目的の一つである若手の教育にも多大なる貢献をしてきたと思います。研究会の最後のセッション『膵』では、若い世代に伝えたい貴重で教育的な症例を広く募集します。テーマは「次世代に伝えたい貴重な症例：膵」です。実際のセッションでは、若手医師を数名ディスカッサントとして指名し、若手の意見や疑問を広く受け付け、議論を盛り上げていくことを考えています。これにより、これまで25回行ってきた臨床消化器病研究会の目的や重要性、マインドを次世代の若手医師に受け継ぐ機会としたいと思います。次世代にどうしても伝えたい多くの演題応募を期待しています。

【MEMO】

【MEMO】

【MEMO】

【MEMO】